

診療科の紹介

眼科・救急科

連携医療機関の先生方にはいつもお世話になっております。今号のWITHでは、平成27年10月に診療科部長が交代となりました「眼科」と「救急科」の2診療科についてご紹介いたします。

眼科

ここの ひでお
眼科部長 神野 英生

略歴

平成 14 年
 東京慈恵会医科大学卒 医学博士

平成 22 年-25 年
 Case Western Reserve University 留学

専門医等：日本眼科学会認定専門医、
 PDT レーザー認定医



救急科

たなか としお
救急科副部長 田中 俊生

略歴

平成 16 年
 昭和大学卒 医学博士

専門医等：日本救急医学会専門医、日本医師会認定産業医、
 身体障害者福祉法第 15 条指定医、
 東京 DMAT 隊員、日本 DMAT 隊員、
 JATEC インストラクター、
 ISLS インストラクター

専門分野：救急医学全般、外傷診療全般、心肺蘇生治療、
 重症頭部外傷、脳蘇生治療、災害医療など



眼科のご紹介

平成27年10月より前任の戸田和重先生から神野英生へと部長交代いたしました。眼科は平成27年4月より常勤医師2人、ORT3人の態勢で診療に臨んでおります。

主な患者数の多い疾患について

白内障: 白内障手術は多焦点眼内レンズ(自費診療)にも対応しております。基本的には1泊2日の入院での治療を行っておりますが、日帰りもしくは基礎疾患を併せ持つ患者さんは長期入院も対応可能です。白内障手術は、初回受診後約1ヶ月以内で手術を施行しております。

加齢黄斑変性、網膜静脈閉塞症、糖尿病黄斑浮腫: 抗VEGF抗体硝子体内注射適応症例も増加しており、毎週14件をめどに加療しております。初診後、各種蛍光眼底造影施行後に早期に硝子体内注射を施行できます。

硝子体手術適応症例: 現在、東京慈恵会医科大学眼科からの応援医師と当院医師により硝子体手術を施行しております。緊急性の高い状況の場合には大学病院への紹介を行うこともあります。

ぶどう膜炎: ぶどう膜炎疾患に対して積極的に診療を行っております。ステロイド剤の局所および全身投与の適応をしっかりと行い視力予後を少しでも良くするように治療しております。

新規導入機器について

パターンスキャンニングレーザーのPASCALを新規導入し、黄斑部閾値下光凝固にも対応することが出来るようになりました。当科は、重症の糖尿病性網膜症および黄斑浮腫の患者さんが多く、そのような方には積極的に黄斑部閾値下凝固を施行しております。また、黄斑疾患診療に使用しているOCT3000について、新規機種のSwept Source OCTへの変更を予定しております。



新規導入された
パターンスキャンレーザーPASCAL



導入予定のSwept Source OCT



今後とも変わらぬ患者さんのご紹介を
よろしくお願いいたします

眼科スタッフ一同
(右から3人目:神野部長/
左から4人目:高野医師)

救急科のご紹介

平成27年10月1日付けで東京労災病院救急科副部長を拝命いたしました。

当院が位置する品川区と大田区で構成される区南部保健医療圏は、平成22年の東京都保健福祉局の調べによると、東京都全体の人口の約8%に当たる100万人を超える人口を誇ります。その中で当院は、これまでも地域の中核病院として一次・二次救急医療の実践に邁進して参りました。

平成22年8月には、東京都から**地域医療支援病院**として認定され、ますます地域の病診連携・病病連携を実効的に深め、地域住民の方々の健康の保持、増進を推進する使命を担っております。また、地域医療への貢献のスタートは救急医療の充実であり、地域の皆様の健康の砦となるべく救急医療の更なる実践を図っていきたくと考えております。

救急科は、他の診療科の連絡・連携を密に取ることで、交通事故や転倒などの外傷疾患をはじめ、胸痛・腹痛・発熱などの一般的な内科疾患、脳梗塞・脳出血・くも膜下出血などの重篤な脳卒中疾患などにも素早い対応ができるような体制を整えており、地域に根ざした総合的な救急集中医療の体制を**24時間365日**、充実させております。平成23年6月より集中治療室(ICU)を設置し、重症症例のより安全な受け入れ・管理体制を整備しております。緊急の造影CTやMRIの施行体制も確立されており、脳卒中疑いなどの早期の診断がその治療と予後に強く関わる患者さんに強い味方となると思います。

最後に、当院は昭和24年5月に設立され、全国の労災病院の中でも最も歴史のある病院のひとつであります。そんな歴史と伝統を有する当院の救急科の長を担う重責を、勤労者の健康と福祉を増進するという創立の趣旨のもと、地域に貢献できる救急医療という形で示すべく、日々の診療に邁進する覚悟でございます。今後とも末永くよろしくお願いいたします。



救急室スタッフ一同(左から3人目:田中副部長)

東京労災DMAT(災害時派遣医療チーム)が誕生しました

兵庫県災害医療センターにて日本 DMAT 研修を受講しました (2015.10.28-31)



東京労災DMAT隊員

1995年の阪神・淡路大震災や2011年の東日本大震災の国難を経た経験から、災害時の医療体制の整備にも強い関心が高まっております。また、30年以内に70%の確率でマグニチュード7級の首都直下地震(最悪の場合、死者2万3000人、経済被害が約95兆円に上る規模の地震)が起きるとの発表もあり、災害に対する準備は当院における最重要事項であります。

当院は、平成26年11月21日に東京都より東京都災害拠点病院に指定されたことを受けて、平成27年11月に東京労災DMAT(災害時派遣医療チーム)の編成が完了いたしました。災害拠点病院とは、東京都の区域内及び近隣県等で災害が発生し、通常の医療体制では被災者に対する医療の確保が困難となった場合に、東京都知事の要請により傷病者の受け入れ及び医療救護班の派遣等、災害時の拠点病院としての必要な医療救護活動を行う病院のことをいいます。災害時の医療支援を第一線で行えるように災害拠点病院としての役割を全うしていく所存であります。また、当院においても近隣地域の大規模災害発生時に対応できるように、全職員を対象とした災害訓練や災害対策研修会を行い、万が一の災害発生時に対応できる災害に強い病院づくりに取り組んでいます。

「WITH(ウィズ)」第27号 平成27年12月17日発行
発行所:大田区大森南4-13-21 独立行政法人労働者健康福祉機構 東京労災病院
発行人:寺本 明 編集人:奥田 弘治